

よこやまけんどう  
横山健堂



萩市・長門市  
(1872～1943)

明治、大正、昭和という長い時代を、短文を重ねる歯切れのよい文体と明快な文章をよくし、進取の気に富んだ視点で、人物評論、史伝、紀行文など、多くの著作を残し、全国各地の講演などに活躍した。東京に住みながら、常に郷土山口をその原点とし、愛情溢れる眼差しを注いだことは、代表作『長周游覧記』に鮮やかである。  
(寺井谷子)

【主な著作】

『日本近世教育史』(同文館、明治37年)

『高杉晋作』(武侠世界社、大正5年)

『長周游覧記』(郷土研究社、昭和5年)